

「まったなし！政治改革推進大会」次第

日 時：平成3年9月27日（金）18:00～19:30

会 場：ホテルニューオータニ・鶴の間

- | | | |
|--------------------|-----------|-----------------------------|
| 司 会 者 | 北 村 直 人 | (自由民主党衆議院議員) |
| 1. 開会のことば | 石 破 茂 | (自由民主党衆議院議員)
(大会世話人) |
| 2. 来 賓 紹 介 | (司会者にて進行) | |
| 3. 来 賓 祝 辞 | 小 渕 恵 三 | (自由民主党衆議院議員)
(党幹事長) |
| 4. 提 言 | 羽 田 孜 | (自由民主党衆議院議員)
(党選挙制度調査会長) |
| 5. 発起人代表演説 | 築 瀬 進 | (自由民主党衆議院議員) |
| | 坂 本 剛 二 | (自由民主党衆議院議員) |
| | 新 井 将 敬 | (自由民主党衆議院議員) |
| | 岡 田 克 也 | (自由民主党衆議院議員) |
| | 森 山 眞 弓 | (自由民主党衆議院議員) |
| | 伊 吹 文 明 | (自由民主党衆議院議員) |
| | 岩 屋 毅 | (自由民主党衆議院議員) |
| | 星 野 行 男 | (自由民主党衆議院議員) |
| | 河 村 建 夫 | (自由民主党衆議院議員) |
| | 戸 塚 進 也 | (自由民主党衆議院議員) |
| 6. 発起人紹介 (司会者にて進行) | | |
| 7. 緊急アピール | 赤 城 徳 彦 | (自由民主党衆議院議員) |
| 8. 閉会のことば | 渡 瀬 憲 明 | (自由民主党衆議院議員)
(大会世話人) |

以 上

「まったなし！政治改革推進大会」

衆議院議員発起人

・ 沢 一 郎
 赤 城 徳 彦
 新 井 徳 将 敬
 粟 井 敏 敏 信
 井 奥 貞 雄
 井 出 正 一
 井 上 喜 一
 伊 吹 文 明
 石 破 敬 茂
 今 枝 雄 寛
 今 津 屋 毅 英
 岩 魚 住 口 汎 一
 江 遠 藤 武 彦
 大 大 島 正 理 光
 大 岡 野 島 功 正 統
 岡 狩 野 田 野 武 勝
 片 岡 子 村 徳 之 介
 金 河 村 建 直 夫
 北 久 野 谷 統 一 人
 熊 小 坂 憲 弘
 古 佐 賀 正 浩
 佐 佐 田 玄 一 郎
 佐 藤 謙 一 郎
 藤 藤 敬 夫
 井 井 隆 二
 本 剛 二

笹 川 堯
 塩 谷 立
 杉 浦 正 健
 杉 山 憲 夫
 鈴 木 俊 一
 鈴 木 恒 夫
 鈴 木 宗 男
 住 田 博 司
 園 田 博 之
 高 武 一 郎
 渡 戸 海 紀 三
 戸 虎 塚 島 進 和 夫
 中 中 谷 成 元
 仲 野 村 昭 彬
 野 萩 山 教 由 紀 夫
 藤 古 星 裕 圭 司
 前 前 田 行 武 男
 増 増 輝 敏 志
 松 松 岩 彦
 三 御 法 川 朝 文
 光 宮 武 里 英 松 正
 村 井 上 誠 一 郎

参議院議員発起人

村 田 吉 隆
 築 瀬 伯 夫
 柳 沢 有 二
 山 本 憲 明
 渡 瀬 憲 明
 (当選3回以下)

秋 山 肇
 石 井 一 二
 石 原 健 太 郎
 尾 辻 秀 久
 大 木 浩
 大 城 眞 順
 岡 野 裕 郎
 岡 部 三 郎
 片 山 虎 之 助
 木 宮 和 彦
 北 世 公 二
 久 沢 田 一 精
 清 水 嘉 与 子
 須 藤 良 太 郎
 鈴 木 貞 敏
 高 木 正 明
 永 野 末 陳 平
 野 村 五 男
 初 藤 滝 一 郎
 藤 井 孝 雄 山
 真 前 島 一 男
 松 浦 勲 男
 松 浦 孝 治
 松 尾 官 平
 宮 崎 秀 樹
 守 森 有 信
 柳 川 眞 弓
 治 治

※ 9月26日
 13時現在
 (五十音順)

緊急アピール

政治改革はいまや一刻の遅れも許されない。その実現は、自由民主党の国民に対する再三にわたる公約であり、わが国の将来の展望を開く上で、不可欠の条件である。

制度疲労の極限に達した現行の中選挙区制の下で、激変する内外情勢に対処することは、その的確性、機敏性、そして責任の所在の明確化という点において、もはや困難と断ぜざるを得ない。

党利党略や、政局の思惑がらみで改革の道に閉ざすことなく、「国民の信頼と負託に応える」という政治の原点に立ちかえることが、いまこそ必要である。

政治改革は、その内容が政治家にとって、いかに苦しく、辛いものであっても、国家国民の将来のため必要なものと信ずる限り、その実現に向け、全力を尽くすのが政治に携わる者の使命である。

われわれは本大会を通じ、さらに改革実現の意を強くし、引き続きあかあかと「政治改革の炎」を輝かせ、一層、志（こころざし）を一つにして国民の声に答えていかなければならないことを痛感した。

ここに、われわれは改めて自らの責任を果たすことを誓うとともに、国民の皆様さらなるご理解をいただき、ともに政治改革実現の機運を高めていただくことを広く訴える。

平成3年9月27日

まったなし！政治改革推進大会